場所・面積 愛知県稲沢市、0.1338 ha

管理目的 地域住民の憩いや環境教育、レクリエーションの場として、また地域の生物多様性保全に貢献することを目的。

サイト概要 「ビオトープながおか」は、地域のいこいの場を創出することに加え、自然豊かな長岡地区の多様な生き物が生息できる空間を創造することを目的に、農林水産省の補助事業である経営体育成基盤整備事業により、愛知県が整備したもの。

魚の棲み家として池内に設置した木製沈床は愛知県産の間伐材を用いるなど、資源の有効活用に努めた。また、あずまや、パーゴラには愛知県産のひのきを用いるなど愛知県産木材の利用にも積極的に取り組んでいる。

土地利用の変遷 元々、水田だった場所を整備し、在来種の生息地を維持するために2011年にビオトープを設置。



サイト周辺の環境 愛知県稲沢市の田園地域に位置する。申請サイト周辺は、田園や畑が広がっている。
水源は木曽川用水海部幹線水路の馬飼東分水工から取水する農業用水（循環利用）を利用して馬飼東分水工から既設用水路（U字溝）を流下する農業用水をビオトープながおか地点にて取水枡を設けて取水ポンプ（直径80mm）により、せせらぎ水路へ揚水し、池へ導水している。

アピールポイント ミナミメダカは愛知県レッドリストVUに指定されており、その保全に貢献している。地域の方々との交流を重視しており、アオミドロ除去や草刈りの維持管理等日常的な管理には地域の企業にも参加していただいている。また年に1回観察会を実施し（8月）、周辺地域の園児、小学生、保護者の環境学習の場としても活用している。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

田畑の中に人工的に造成されたビオトープで、地域住民の憩いの場として、人の利用や要求される機能を考慮してゾーニングを行っている。また地域在来種である高木・低木の植生に合わせて草木類を選定しており、四季折々の植物を楽しめるようにしている。多様な鳥類・昆虫類の飛来が確認されている。

【文化的サービス】

年に1回観察会（いきもの調べ）を実施し（8月）、周辺地域の小学校の環境学習の場として活用している。

【確認された主な動植物】

以下の通り、希少種が確認されている。

ミナミメダカ（学名：*Oryzias latipes*、成体）等の魚類2種
マシジミ（学名：*Corbicula leana*、成体）



写真の撮影年月：2019年8月3日
写真の説明：第７回　生きものしらべ

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

木曽川から導水して池が２つ存在し、池の周辺は開けた自然環境である。

【確認された希少種】

2022年4月に実施した調査において、以下の通り、希少種が確認されている。

・ミナミメダカ（学名：*Oryzias latipes*、成体、環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類）
・マシジミ（学名：*Corbicula leana*、成体、環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類）

ミナミメダカは2011年から、マシジミは2016年から毎年継続して確認されている。



写真の撮影年月：2022年4月
写真の説明：ミナミメダカ

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容

【管理計画の内容】

【ミナミメダカ等の魚類2種】
・上池および下池において、4月～9月は毎週、10月～3月は隔週で注水管理を行い、ミナミメダカ等が生育できる環境を維持する。
・草地において、週に1回草刈りを行い、良好な草地環境の維持を図る。
・年に1回池干しを行い、池底に溜まったヘドロ除去を行う。

【マシジミ】
・上池および下池において、4月～9月は毎週、10月～3月は隔週で注水管理を行い、マシジミが生育できる環境を維持する。
・草地において、週に1回草刈りを行い、良好な草地環境の維持を図る。
・年に1回池干しを行い、池底に溜まったヘドロ除去を行う。

※池干しの際に外来種が確認された場合は、専門家・関係者と協議のもと適切に駆除を行う。

モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】
ミナミメダカ等の魚類2種、マシジミ

【モニタリング場所】
上池および下池

【モニタリング手法】
成体数を数える

【実施時期及び頻度】
4月頃　年に1回

【 実　施　体　制 】
尾張西部生態系ネットワーク、シヤチハタとの共同実施

※主な対象種は上記3種であるが、その他の確認された種についても記載し、毎年の調査で確認された種のリストを作成している。